

岩ヶ谷康介

「勝ち負けよりも大切なこと」をテーマにリスペクト教室を継続開催。用具係やサポーター、審判員、アンプティサッカー選手らから学ぶ機会を通じて、多様な立場への理解や感謝の心を育成している。子どもたちの行動変容や保護者・地域の意識向上につながり、人を大切にするスポーツ文化の醸成を地域ぐるみで推進している。

取り組み内容

実施期間：2024年7月～現在まで

実施場所：静岡県焼津市

取組内容：『勝ち負けよりも大切なこと』を掲げ、サッカーをより魅力的で幸せなスポーツにするために、リスペクトを広める活動を続けています。選手として「する」、試合を「みる」、サッカーを支える多様な人々と「関わる」、そしてサッカーを「知る」。この4つの視点を通して、サッカーに関わるすべての人の存在を感じられる学びを届けたいと考えています。

子どもたちがサッカーを楽しむその裏側には、用具を整える人、応援で背中を押す人、食事で支える人、正しく安全に試合を進める審判、そして障がいがあっても情熱をもってスポーツに向き合う人たちがいます。多様な立場からサッカーを愛する人々の存在が、子どもたちのプレーを支えています。「リスペクト教室」は、そんな「見えない支え」に気づき、感謝し、尊重する心を育てる学びの場です。

第1回では清水エスパルスの用具係・西山敬大氏から、用具を丁寧に扱うことが選手の力を引き出すことを学び、「物を大切にするリスペクト」が芽生えました。第2・3回ではライフキネティックと食育を通して「自分自身を大切にする」ことに向き合い、挑戦する姿勢や体を思いやる行動が育ちました。第4回では藤枝MYFCのコールリーダーから、応援は日常の中で誰かの背中を押す行為そのものだを学び、友だちを励ます一言も立派な応援だと知り、子どもたちの中で応援の価値が日常へと広がりました。第5回ではアンプティサッカー元日本代表・若杉幸治氏から「できないのではなく、やらないだけ」という気づきを得て、多様性への理解が深まりました。第6回では審判の役割に焦点を当て、正しく判定することだけでなく、選手の安全を守り、試合の価値を支える「影の主演」であることを学びました。子どもたちは「審判がいるから安心してプレーできる」という新しい視点をもつことができました。第7回ではタニラダーを通して、走りの技術を磨くことが自信や挑戦する心につながることを体感し、努力が自分を支える「もう一つのリスペクト」であると気づきました。

子どもたちの学びが、地域に温かいスポーツ文化を育む力になっています。その変化は、地域の未来を確かに動かす力です。リスペクト教室で芽生えた「人と自分を大切にする心」が、家庭や学校、街へと広がり、焼津から全国へ豊かなスポーツ文化を育てていきます。



▲ オフサイド体験してみない？
◀ 第5回アンプティサッカー編

[リスペクト教室広告＋報告書](#)

[リスペクト教室概要スライド](#)